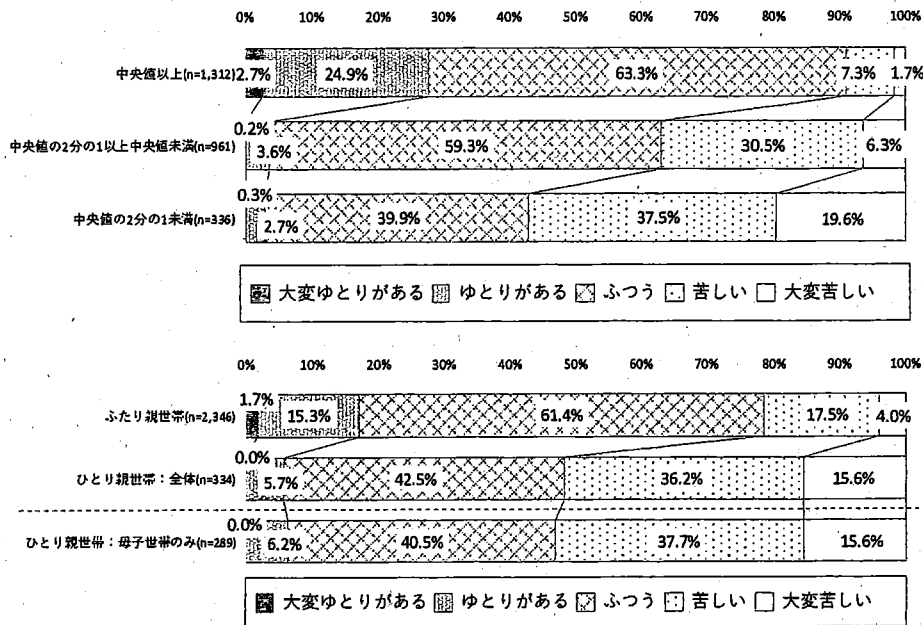


●現在の暮らしの状況について「苦しい」又は「大変苦しい」と回答した割合は、もっとも収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、全体の2倍程度に及んだ。

「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合は、全体では 25.3%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 36.8%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 57.1%、「ひとり親世帯」全体では 51.8%、「母子世帯」のみでは 53.3%であった。



●収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「食料が買えなかった経験」や「衣服が買えなかった経験」、「公共料金の未払い」が生じている割合が高い。

「食料が買えなかった経験」が「あった」とする割合は、全体では 11.3%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 15.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 37.7%、「ひとり親世帯」全体では 30.3%、「母子世帯」のみでは 32.1%であった。

「衣服が買えなかった経験」が「あった」とする割合は、全体では 16.3%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 23.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 45.8%、「ひとり親世帯」全体では 38.9%、「母子世帯」のみでは 41.0%であった。

「電気料金」、「ガス料金」、「水道料金」のいずれか1つ以上で未払いが発生している割合は、全体では 5.7%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 7.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 20.7%、「ひとり親世帯」全体では 16.2%、「母子世帯」のみでは 16.4%であった。

3) 生活、子育てへの深刻な影響

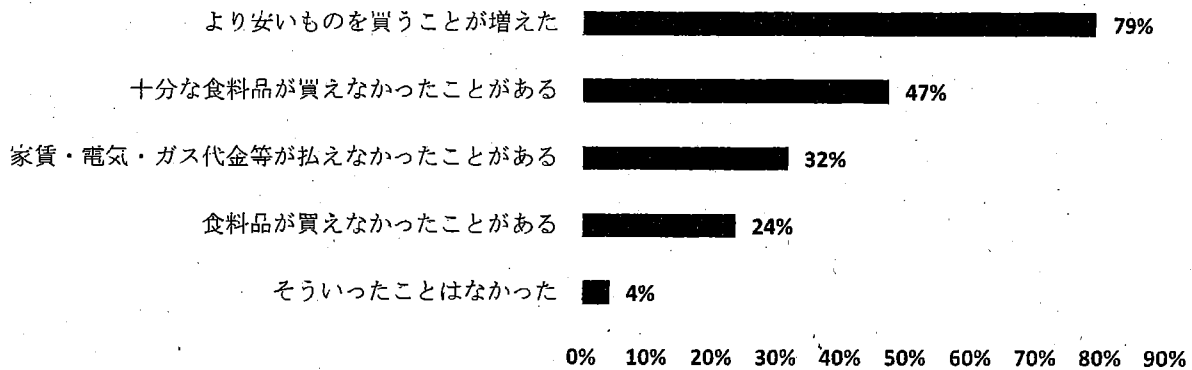
困窮家庭では、すでに十分な食料品が買えない、生活インフラに関する支払いができないなどの生活への影響が深刻化。さらに、学校関係の支払いが遅れた人も4割近くに上った。

また、困窮は食事の量や質に大きく影響している。子どもの成長に大きな影響がすでに及んでいる可能性が高い。

生活状況についてお伺いします。以下のような状況（2020年1月以降）がありましたか？

(複数回答可)

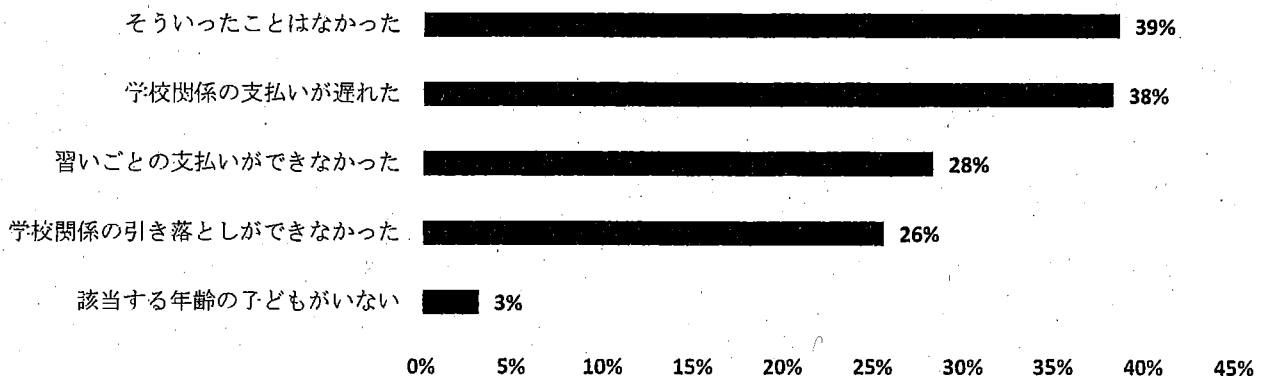
N = 1469



教育の支払い等についてお伺いします。以下のような状況（2020年1月以降）がありましたか？

(複数回答可)

N = 1469



コロナ以前と比較し、食事の量や質の変化について、あてはまるものを選んでください。

(複数回答可)

N = 1469

